

氏 名 門 田 守<sup>かど た まもる</sup>



所 属 ・ 職 名 英語教育講座 (英米文学)・助教授

研究室電話番号 0742-27-9161  
(ダイヤルイン・FAX 兼用)

電子メールアドレス kadotam@nara-edu.ac.jp

最終学歴及び学位 名古屋大学大学院文学研究科博士課程中途退学 (1988)  
文学修士 (英文学) (名古屋大学 1986)

所 属 学 会 等 日本英文学会, イギリス・ロマン派学会, 国際バイロン学会

専 門 分 野 イギリス・ロマン派詩, 19-20 世紀イギリス小説, イギリス文化論

#### 研究と教育について

研究のテーマはバイロンにおける崇高 (sublime), ギリシア愛 (philhellenism), オリエンタリズム等の特質を 19 世紀イギリスの言語文化的環境と絡み合わせて検討している。彼のギリシアにおける死を自己劇化, 楽園願望, 崇高の意識などが緋い交ぜとなって現れた現象として捉えようとしている。バイロンのホイッグ・リベラリズムについても, 最近考察を加えている。さらに, オースティンや現代女流小説家の作品をフェミニズムの視点からも分析している。

教育の方針としては, 特に 19 世紀から現代に至るイギリス女流小説家の作品を教養小説の側面から教え, かつ学ぶようにしている。特にフェミニズムに関わる諸文献を検討しつつ, 作品執筆時の女性をめぐる言語文化的環境を把握し, 作品を捉え直そうとしている。またイギリス文化あるいはトピックス的に捉えたアメリカ文化についても, 講義では議論している。

#### 主な研究業績

- ・「アイデンティティの不在と楽園の追求 - 『ワーナー』における人間関係の力学 - 」2000 年『奈良教育大学紀要』(人文・社会科学)
- ・「『ジェイン・エア』の言語文化的環境 - 19 世紀イングランドにおける女をめぐる抑圧の諸形式 - 」2001 年『奈良教育大学紀要』(人文・社会科学)
- ・「『ジャウア』におけるオリエンタリズム - その語りの構造の視点から - 」2002 年『奈良教育大学紀要』(人文・社会科学)
- ・「バイロンとロマン的オリエンタリズム - 彼のコスモポリタン性をめぐって - 」2003 年『イギリス・ロマン派研究』
- ・「Byron and the Anxieties of Empire: On the Role of Heroines in His Eastern Tales」2005 年『イギリス・ロマン派学会創立 30 周年記念論文集』

#### 主な授業担当科目

英米文学史 I & II (教員養成課程, 総合教育課程), 国際理解地域研究 I & II (教員養成課程, 総合教育課程), 英米言語文化論 (教員養成課程, 総合教育課程), 英米社会文化論 (教員養成課程, 総合教育課程) 隔年開講, 奇数年度開講, 英米文学作品研究 (教員養成課程, 総合教育課程) 隔年開講, 偶数年度開講

学 会 活 動 日本バイロン学会 (国際バイロン学会の日本支部) において, 理事および『広報』の編集を担当している。日本英文学会中部支部や国際バイロン学会において, ほぼ毎年研究発表を行っている。

社 会 的 活 動 帝塚山高等学校 SELHi (スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール) 運営指導委員を担当。また高校生や市民を対象にした, 英語ボランティアガイド活動の指導も行っている。

講 演 の テ ー マ 「摂政政治体制下のバイロン - ラディカルか貴族主義者か? - 」2004 年 バイロン協会談話会, 「ホイッグ・リベラリズムとバイロン」2005 年 名古屋大学英文学会第 44 回大会講演